# PEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）について

## 1．　東アジア海域環境管理パートナーシップとは

東アジア及び東南アジアの海域における海洋の開発と海洋環境の保全との調和を目指した「持続可能な開発」の枠組み

## 2．　設立

1994 年に国連開発計画（UNDP）が設立。我が国は、2002 年から参加

## 3．　参加国（2007 年5 月現在）

東・東南アジアの１１カ国（日本、ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ、中国、北朝鮮、ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ、ﾗｵｽ、ﾌｨﾘﾋﾟﾝ、韓国、ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ、東ﾃｨﾓｰﾙ、ﾍﾞﾄﾅﾑ）

## 4．　活動の特徴

目標、戦略等を共有し、各主体が可能なことを着実に実行していく「パートナーシップ」や「協働」が基本理念。法的拘束力を伴う活動は行っていない。

## ５．PEMSEA の活動実績と今後の方針

○ 活動実績（1994～2007）

・持続可能な開発に関連して、海域を利用区分ごとに分ける利用調整（ゾーニング）、希少生物の保護域設定、市民参加による海洋モニタリング等を総合的に行うモデル事業を、厦門、マニラ湾等、途上国である参加国のうち、9カ国、計１７箇所の海域で実施。

・東アジア海域の持続可能な開発を達成するための具体的な手法及び適用可能な原則をとりまとめた、「東アジア海域における持続可能な開発に関する戦略（SDS-SEA）」に、2003 年 12 月にPEMSEA参加国が合意。

○ 今後の方針

・2006 年 12 月に、上記戦略（SDS-SEA）を実施するためのペムシー（PEMSEA）の今後 10 年間の活動目的、計画等、共通の戦略目標を決定。概要以下の通り。

i)　2009 年までにPEMSEAとして、地域パートナーシップ 10 カ年計画の採択を目指す。

ii)　2015 年までに参加国のうち７割以上の国において、持続可能な開発のための国家戦略及び行動計画を策定し、実施する。

iii)　これまでに１７箇所で行われてきたモデル事業を発展させ、2015 年までに地域の海岸線の少なくとも 20%で総合的な取組を実施する。

・PEMSEA の運営方針等は、今後「東アジア海域パートナーシップ会議」で決定される。会議の概要は以下の通り。

PEMSEAのパートナー*による、PEMSEAの運営方針、行動内容等を策定する会議。（*パートナー：PEMSEAに参加する国、国際機関、私企業、NPO等。）

１８ヶ月に１回の定期会議開催が予定されている。第１回会議はインドネシアにて 2007 年 7 月に開催。なお、第２回会議は 2008 年 7 月に日本で開催予定。

6．　日本からの資金拠出と日本人スタッフの新規参入

平成１８年度より、PEMSEA 事務局の運営経費として約 12.5 万ドルを拠出。なお、中国、韓国も各々、同時期に資金を拠出。

また、拡充された事務局職員として日本人スタッフ（脇田和美）が同年 9 月よりマニラでの勤務を開始。なお、同時期に韓国からもスタッフが新規参入（前・MOMAF 勤務）。

-- -- -- -- -- -- -- -- -- -- -- -- -- -- -- -- -- -- -- -- -- -- --

## PEMSEA 新オフィス開所記念およびマニラ湾環境アトラス出版記念式典

### 1．式典の趣旨

日本･中国･韓国の3カ国から拠出金を得て新たに設置された事務局（PEMSEA Resource Facility Secretariat Services）の発表と、フィリピン環境天然資源省の援助により建設された新オフィスの公開を行ない、PEMSEA が東アジア各国の協力を得て継続されている活動であることをアピールするとともに、これまでの各国における活動成果を公開し、今後の協力関係を強固にする契機とする。

また、マニラ湾環境アトラス出版記念式典では、環境アトラスの出版を祝うとともに、PEMSEA との協働により、フィリピンの複数の省庁が協働して環境地図帳を作成した活動の成果を広く公開し、今後、同様の取り組みが各国へ波及することを期待するものである。

### 2．記念式典への主な出席予定者

(1) 東アジア各国の大使館
　中国大使館
　韓国大使館
　その他大使館（タイ、ベトナム、カンボジア、インドネシアなどパートナー各国）

(2) フィリピン環境天然資源省（DENR）　長官　←開所式の第3番目のスピーカー

(3) UNDP マニラ　所長

(4) フィリピンエネルギー省　前長官

(5) その他 ASEAN 関係者など